

研修参加報告書

令和5年10月23日

会派名 江南藤クラブ
会派代表者 堀 元

(参加者：堀元、大藪豊数)

研修参加の結果について、次のとおり報告します。

年月日	令和5年10月12日(木)～13日(金)
研修時間	1日目 9:30～16:30 2日目 9:30～11:50
研修場所	八戸市公会堂・公会堂文化ホール
研修内容	第85回全国都市問題会議 文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展 1日目 基調講演、主報告、一般報告 2日目 パネルディスカッション

研修参加報告書

年月日	令和5年10月12日(木)～13日(金)
研修時間	1日目 9:30～16:30 2日目 9:30～11:50
研修場所	八戸市公会堂・公会堂文化ホール
研修内容	第85回全国都市問題会議 文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展 1日目 基調講演、主報告、一般報告 2日目 パネルディスカッション
■目的	第85回全国都市問題会議「文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展」へ参加して、様々な先進事例、今後のまちづくりの在り方を学ぶため。
■内容	10月12日(木) 1日目 ○開会挨拶 全国市長会会長 福島県相馬市長 立谷 秀清氏 冒頭、災害時における県の整備局担当とホットラインを結んだ話題が出てきた。 ただし、残念ながら各電話キャリアとの契約の中に公共性の高い機関の担当者について、災害時多くの携帯電話・スマホ利用者が通信することによる通信障害を防ぐため通信制限をキャリア側が行っても、優先的に通話ラインを確保するシステムがあることを付け加えてほしかった。たったこれだけのことで多くの命を救うことができる。 また、いよいよワクチン接種が有料となることに触れ、米国で実費接種が日本円で1回17,000円ほどになるとのこと。この時、高齢者などの摂取の補助をしようとしても地方自治体の中で補助する財政力に地域間格差が生じてくるという切実な話が出た。財政力指数の低い自治体はなぜか高齢者も多く、この問題にどう取り組んでいくのかは大きな課題だと感じた。 ○開催市市長挨拶 青森県八戸市長 熊谷 雄一氏 最初に、青森県八戸市の紹介があった。 県内で人口第二位の中核都市であり22万人の市民がいる。

私が知らなかったことは、国際貿易港と東北最大の漁港があることである。

ユネスコ無形文化遺産の八戸三社大祭は会場にも山車の実物展示があり、その大きさと迫力に感動した。同じくユネスコ無形文化遺産の「山・鉾・屋台行事」に登録された犬山祭に関わっていた私としては、大変に興味があるもので、その曳き回しに現代において八戸三社大祭は大型のトラックのキャビンとエンジン、そしてシャーシに飾り付けをして運行しているところが面白いと思った。

○来賓祝辞 青森県知事 宮下宗一郎氏

○基調講演 アートの役割って何だろう？

東京藝術大学長、アーティスト 日比野 克彦氏

冒頭、『今回の都市問題会議で全国の市長・市議が一堂に集まる会があることは知らなかった、そんな機会に講演をさせてもらえる機会があるのなら、市長らに伝えたいことが山ほどある。』と、言ってみえた。

ただし、ブラッシュアップされた各地域におけるイベントなどは目を見張るものが多かったので、いくつか紹介する。

八戸市に 2021 年にオープンした美術館にそぐわない大きな空間『ジャイアントルーム』を設置した。このジャイアントルームは多様性と持続性を持たせたコミュニティ拠点として、美術館なのに大声でゲームをしたり、静けさを大切にしていたはずの美術館に幼児や児童のアトラクションを設けて、広範囲の年齢層に美術館を楽しんでもらえるものとした。これは逆転の発想からのアイデアで、あえて禁断のエリアに踏み込んだ素晴らしい考えだととても感心した。

講師は岐阜県岐阜市で高校生までもを過ごしたことから、長良川でのイベントを企画されたそうで、屋形船の屋根に市民手製の行燈を取り付け1年で夜が最も長い冬至の夜を楽しむイベント『こよみのよぶね』を開催。これを業者に依頼するのではなく全て市民の手作りで行ったことに大いに意義があると思った。

熊本市での取組は実に興味がわいた。熊本市長に許可を得て、市で開催する計画『熊本市第8次総合計画展』を紹介した。熊本市美術館で8次総合計画のひとつひとつの計画を可視化して誰にでもわかるように表現する試みだそうだ。

これは実に面白い、問題はその表現方法だろうが、きっと楽しく分かりやすいアートになることだろう。見に行きたいものである。

講師は最後に『アートは生きる力』と言って講演を結んだ。

○主報告 八戸市の文化・スポーツによるまちづくり

青森県八戸市長 熊谷 雄一氏

八戸せんべい汁が紹介された。過去のB1グランプリ最優秀賞を取った地域の伝統食である。宿の直近のコンビニでも各種せんべい汁に入れるせんべい数種類、出汁のもと、具材などが売られている。市民が買い物をするスーパーなどでの品ぞろえはその比ではないそうだ。

食べる量に比較してお腹の中で膨張するせんべいが食を細くし、結果的には満腹感が早期に訪れ、ダイエットにも役に立つことが分かった。健康食として認めても良いのではないだろうか。

八戸市は環境的に青森市などと比較して雪は少ない。しかし気温は低い。この環境条件をうまく利用して世界的競技会にも使えるアイススケート専用アリーナを作り、連綿と地域のスポーツの伝統の糸を紡いでくれている。

○一般報告 まちづくりの活力は地域に根ざした文化政策から育まれる

文化事業ディレクター、演出家 吉川 由美氏

八戸市を離れ、数年後に八戸市に戻った講師が見たのは、荒廃しきった中心市街地だったようだ。その中で八戸市らしいまちづくりを考え、江南市にあるまちづくり拠点施設のような施設を造った。それが『はっち』と呼ばれる施設で、まちづくりの情報や支援などがワンストップでできる施設である。

この『はっち』に集う方々が作り出したのが中心市街地のにぎわいを創出する横丁などで、今では夜の中心市街地がとても賑わっているようだ。

実際夜の中心市街地を歩いて廻ったが、平日の夜にも関わらず大変に賑わっていた。

○一般報告 標高差 1,500m の地勢を活かしたスポーツ・ツーリズムの創出

長野県東御市長 花岡 利夫氏

東御市は関東と東海の中間に位置し、標高が高いことから特にマラソンなどアスリートのトレーニング地として大変有名だそうだ。

こうしたトレーニングに来るアスリートの利便性をはかるとともに、リピーターとして取り込むための受入れ態勢を整えたところからスポーツ・ツーリズムが生まれた。今では、各種スポーツの練習がしやすい施設を設置したり、受入れ態勢に特化した工夫をするなどで全国のプロ・アマ問わず東御市を訪れるようになった。

○一般報告 まちづくりにおけるプロスポーツクラブの有効活用

株式会社鹿島アントラーズFC取締役副社長 鈴木 秀樹氏

言わずと知れたプロサッカーチームの運営をする仕事である。

現在、野球・サッカー・バスケットボール・バレーボール・ホッケーなどのプロ・アマの育成に協力している都市が散見される。

こうしたチームをアマからプロに育成する地域とそのチームの有名度が街の発展に寄与しているようだ。

実際、以前私が視察をした北海道札幌市の北ガスアリーナでもプロのバスケットチームを持っているが、確かに街の発展には大きく寄与していた。近隣では各務原市がホッケーの町として全国的にも有名である。江南市は昔からソフトボールが有名である。ソフトボールを有効活用できるとよいと感じた。

10月13日(金)

2日目

パネルディスカッション

【テーマ】

文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展

【コーディネーター】

東京大学大学院人文社会系研究科教授 小林 真理氏

【パネリスト】

合同会社 imajimu 代表取締役 今川 和佳子氏

拓殖大学商学部教授 松橋 崇史氏

静岡県沼津市長 頼重 秀一氏

京都府綾部市長 山崎 善也氏

コーディネーター小林氏の話はまず箱モノを造ってしまうと、その運営・管理に多大な労力と費用が必要となるとのこと。1990年代、全国では週1のペースで『文化』と言う冠を配した施設、文化会館、文化ホールなどができていたが、そのほとんどが文化不毛の施設となり、管理する職員は大変な苦勞を強いられた。文化会館とはイベントをするだけでなく、イベントを通じた人づくりをする施設でないといけないという持論であった。その通りだと思う。

江南市では、イベントを行う団体は多いと思う。しかしそれぞれが単体で動いており、連携ができていないことがこの地に文化を醸成していない理由ではないだろうか。

つづいて、今川氏では、この方も一旦東京に出たUターン組であった。

地元に戻るとそこにまちづくり拠点施設『はっち』ができるころであった。2011年にはっちオープニングスタッフとして、コーディネーターとなる。

デコトラ発祥地である八戸市は一から創造することが得意である。その証拠が三社大祭である。そこで、中心市街地の居酒屋が立ち並ぶ横丁に、横丁オンリーユーシアター『酔っぱらいに愛を』実行委員会を作り、閉店した居酒屋などを利用して色々な催し物をした。

つづいて、松橋氏では、2004年は野球界が疲弊し始めた年であり、まず疲弊しかけた野球を守るため、各大学の1年生だけの試合を行ったところ大変好評であった。

こういった地域活性化でスポーツに力を入れた地域は、発展していた。

古くは地域活性化とスポーツ政策のきっかけとして国体を取り上げられる。国体で力を入れた地方都市がスポーツ政策を成功させた。

今後は多様性が注目される、パラリンピックなどスポーツと共生社会がテーマとなる。そして『全力』と『一生懸命さ』が可視化できるのがスポーツの良いところであり、これをいかにうまく表現できるかが今後の課題であろう。

つづいて、頼重氏では、スポーツにアニメを結びつける。

沼津市は市とその東西南北の環境に恵まれていて、スポーツ環境には大変よい地の利がある。交通アクセスもよく、首都圏から車で1時間半、中京圏からも数時間で到着し、多くのスポーツ関係者が集まりやすい環境である。

ポテンシャルも、環境・海岸・沼津アルプス・駿河湾・狩野川・Jリーグ・スタジアム・野球場・BMXに適した環境・民間活力と実に豊富である。そんな中で日本フェンシング協会と包括連携協定を結んだ。そして推進協議会でさらに協会との結びつきを強化した。

また、街の環境を利用して、サイクリングに目を付け、これをスポーツ・ツーリズムにつなげた。全国からサイクリングを趣味としている多くの観光客が沼津を訪れた。

私は個人的に全く知らないが、大人気アニメ作品「ラブライブ！サンシャイン!!」のロケ地巡りで、沼津を満喫するツアーがあるとのこと。絶大な人気を誇るアニメ作品「ラブライブ！サンシャイン!!」の舞台は、沼津市各所。市内には、作中シーンそのままの風景が広がっているようで、JR沼津駅をスタートし、随一の観光スポット沼津港や歴史香る沼津御用邸記念公園、作品の主な舞台である内浦地区へと旅をするコンセプトだそうである。

やはりアニメはカギである。江南市も一度でよいので、コナン君に来てもらいたい。

つづいて、山崎氏では、綾部市は山に囲まれた盆地で、災害は主に水害の街である。日本海側の舞鶴に近く、府庁のある京都市からは遠い立地。有名企業として、江南市にもある『グンゼ』がある。

昨今、総合計画に『市民一人、1文化・1スポーツ』を書き加えた。そして文化・スポーツを教育委員会管轄から市長部局に組み替えた。特に文化には力を入れ、市内に25団体もある合唱団に、市の予算で講師を呼び力を入れた。その成果は、市民全員、市歌が歌えるようになったことである。

江南市には市歌がない。この際70周年を記念して市歌を一般公募してはどうかと思った。

○閉会式

次期開催市市長挨拶 兵庫県姫路市長 清元 秀泰氏

閉会挨拶 公益財団法人日本都市センター理事 奥山 恵美子氏

■所感

この度の全国都市問題会議の主催側でお世話をいただいた多くの皆さまに心より感謝をしたい。今回、様々な事例を学ぶことができ、とてもよい刺激となった。これからの江南市の魅力について、改めて考え、今後活かしていけるように取り組んでいこうと思う。

